

## 生命医科学科

### ・カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

講義科目では、物理・化学・数学・情報科学・生命科学の基礎を十分に学んだ上で、理工学系、生命科学系、医学系の専門科目をバランスよく学ぶ。実験科目では、化学物質や分析装置の取扱い、遺伝子・タンパク質の取扱い、細胞培養、動物実験の基本操作を学び、さらにバイオイメージングやバイオマテリアルを用いた最新のバイオテクノロジーを身につける。これらの知識と技術を活かし、卒業研究では実践的な研究を行い、その遂行能力を評価する。

### ・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

マイクロやナノといった分子レベルで事象を捉える学問である物理と化学を基盤とし、主に分子生物学を中心に生命現象を理解しながら生命科学，医科学，医工学の知識を身につける。これらの知識を活かし、理工系と医学系の2つの分野を融合させた新たな分野の研究を展開する力を身につける。生命科学・医科学領域において自然科学の観点から真理を探究する基礎的な知識と能力を有すると認められた場合に、学士(理学)の学位を授与する。医科学・医工学領域において工学の基礎的な知識と応用力を有すると認められた場合に、学士(工学)を授与する。

## 生命医科学専攻

### ・カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

講義科目では、理工学系、生命科学系、医学系の専門科目に加えて、実際の研究・開発に必要となる情報科学や研究倫理をバランスよく学ぶ。配属研究室において化学物質や分析装置の取扱い、遺伝子・タンパク質の取扱い、細胞培養、動物実験を実践的に学び、さらにバイオイメージングやバイオマテリアルを用いた最新のバイオテクノロジーを身につける。これらの知識と技術を活かし、修士課程では実践的な研究を行い修士論文にまとめ、その遂行能力と論文執筆の能力を評価する。博士課程では研究指導のもと独創的な研究を行い、国際学会や国際誌で発表し、博士論文としてまとめる能力を身につける。

### ・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

マイクロやナノといった分子レベルで事象を捉える学問である物理と化学を基盤とし、主に分子生物学を中心に生命現象を理解しながら生命科学，医科学，医工学の知識を身につける。これらの知識を活かし、理工系と医学系の2つの分野を融合させた新たな分野の研究を展開する力を身につける。修士論文の審査を行い、生命科学・医科学領域において自然科学の観点から真理を探究する知識と能力を有すると認められた場合に、修士(理学)の学位を授与する。医科学・医工学領域において工学の基礎知識を応用する技術と能力を有すると認められた場合に、修士(工学)を授与する。博士課程においては、研究指導のもとで独創的な研究を行い、論文を国際誌・学会などで発表し、研究成果を博士論文としてまとめあげる。博士論文の審査において、自然科学の高度な知識と新たな真理を解明する能力を有すると認められた場合には、博士(理学)の学位を授与する。工学の幅広い知識を備え、応用を実現する技術と能力を有すると認められた場合には、博士(工学)の学位を授与する。